

日本獣医師会顧問 元会長 五十嵐幸男先生の逝去を悼んで

日本獣医師会の常任理事を5期15年、副会長を1期3年、第10代会長を3期6年間の長きに亘り務められ、本会の発展にご尽力され、また我が国の獣医界において指導的役割を果たされた五十嵐幸男先生は、本年9月16日に96歳の生涯を終えられました。先生の地元埼玉県熊谷市において、9月21日にお通夜、翌22日に告別式がしめやかに執り行われ、両日とも多数の方が参列されました。



お通夜では参列者を代表して藏内勇夫日本獣医師会会長から、故人の獣医界に対する功績への感謝と、日本獣医師会がそのご意志を引き継ぎ、さらなる発展に尽くしたい旨の挨拶がありました。翌日の告別式においては、故人の地元獣医師会の後任である高橋三男埼玉県獣医師会会長が、藏内会長の弔辞を代読されました。祭壇は関係者からの多数の生花で飾られ、遺影の隣には日本獣医師会会長特別感謝状が配置され、参列者は改めて故人の偉大な功績に思いを馳せるとともに、生前のお姿を偲んでおられました。

ここに改めて五十嵐幸男先生を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



弔 辞

本日、ここに日本獣医師会顧問、元会長の五十嵐幸男先生の御葬儀に臨み、日本獣医師会を代表して御霊前に追悼の辞を申し上げます。

五十嵐先生は平素より敬服するばかりのご健康を誇り、常に我が国の獣医界の陣頭に立ち、御活躍されてこられました。本年6月に開催された第70回日本獣医師会通常総会においても、例年通りお元気で御出席いただきましたのが、つい昨日のように思えてなりません。今、ここに深い悲しみを抑えながら、先生の御遺影の前で在りし日の面影を忍びつつ、惜別の言葉を申し上げなければならぬことは、痛恨の極みでございます。

五十嵐幸男先生は、大正6年に岩手県一関で誕生され、昭和13年に現在の国立学校法人岩手大学農学部の前身である盛岡高等農林学校獣医学科を卒業された後、陸軍獣医学校に入学され、その後は軍務に服され輝かしい軍歴をお持ちであります。終戦後は3年間に及ぶ苦難のシベリヤ抑留を経験され、復員後は熊谷佐谷田の地で産業動物の診療獣医師として開業され、生涯現役としての言葉通り獣医診療に従事されてこられました。我々がお慕いした五十嵐先生の温厚篤実の中に粘り強い御性格が見受けられましたのは、戦中・戦後を通して苦難の経験を経たことによるものと推察いたします。

その後は、不屈の精神力と国家を思う強いお気持ちをもって、我が国の復興と繁栄、特に獣医界や関連産業の発展に取り組まれました。この間、埼玉県獣医師会会長、農林水産省獣医師免許審議会委員、日本動物保護管理協会副会長、日本家畜人工授精師協会副会長、中央畜産会常任理事等、数々の要職を歴任されました。特に、日本獣医師会においては常任理事を5期15年、副会長を1期3年、会長を3期6年務められ、その後も顧問に就任されて今日まで長きにわたり御指導を賜りました。全国の会員並びに構成獣医師を代表して感謝を申し上げます。

今日の獣医界においては、多くの課題が山積して、指導者を失うことは、誠に惜みても余りありますが、先生が常々我々に示された「徳義と和」を大切にす精神は、日本獣医師会の活動の礎として今後も我々の中に息づいていくものであり、末永く我々の歩む道をお見守りくださるようお願い申し上げます。

また、五十嵐先生は学術的にも自らの研鑽を怠ることなく、自らが切り開かれた臨床研究の道で、昭和40年に日本大学から獣医学博士号を授与され、更に、北里大学並びに日本大学で後進の育成に尽力されました。これらの先生の多くの御功績が称えられ、旭日重光章をはじめ、多数の輝かしい受章・表彰を受けられたことも、我々獣医界の誇りとするところであります。

幽明境を異にする永久の別れは、ただただ万感に迫り御霊前に深く頭を垂れるばかりでございます。惜別の情断ち難くはございますが、五十嵐幸男先生に最後の深甚なる敬意と感謝の念を捧げ、ご遺族の皆様方とともに謹んで御冥福をお祈り申し上げて、お別れの言葉といたします。

平成 25 年 9 月 22 日
公益社団法人 日本獣医師会
会長 藏内 勇夫 合掌